青葉中学校区青少年健全育成推進会だより

あおば

No.86
令和5年3月14日発行
青葉中学校区青少年健全育成推進会事務局
札幌市立青葉中学校 011-891-4351

「在宅中でも、必ず施錠しましょう!」

青葉中学校区青少年健全育成推進会 会長 唐原 元嗣

早春の候、昨年ほどの大雪の影響はないものの、地域の皆様におかれましては児童の見守り、周辺の除雪等にご協力を頂き心より感謝申し上げます。感染症対策による行動制限も緩和され、子供たちの元気な姿を見る機会も増え、我々も元気をもらっております。

一方気になるのは、住宅街での犯罪です。空き巣、強盗などがニュース等で報じられており大変危惧しております。空き巣被害の約半数が未施錠とのことで、「子供の在宅中にも必ず施錠する」、「宅配業者は、解錠前に荷物の宛名を確認する」など、それぞれの防犯対策をご確認ください。

新学期に伴い、改めてご協力頂くこともあろうかと存じますが、今後とも変わらないご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

「本物とふれあうよさを生かして」

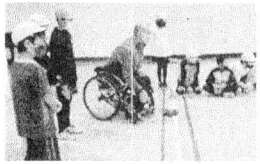
新札幌わかば小学校　教頭　道佛 智志

2月21日(火)に北光幼稚園の年長さん 14 名が本校に来校し、交流活動を行いました。開校当初より2年間はコロナ禍にあり、園児との対面での交流は叶いませんでしたが、今年度は新型コロナウイルス感染症も落ち着きが見え始めましたので、5年生と年長さんとが互いに顔を合わせて交流する姿が見られました。

5年生は総合的な学習の時間の中で、様々な歓迎のプログラムを考えました。タブレット型 PC を使って「お絵描き」をしたり、一緒に運動したり、器楽演奏を体験できるコーナーを考えたりしました。年長さんを楽しませたい、学校が楽しいところだということを紹介したい、という5年生の思いがあふれていました。また、年長さんも緊張しながらも、楽しんでいる姿が見られ、とても温かい会になりました。対面でのふれあいのある活動のよさを改めて感じた一日でした。

【5年生と園児との交流】

さて、令和4年度の教育活動も終わりを迎えようとしています。今年度についても新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの教育活動でしたが、徐々にコロナ禍以前のような活動も取り入れられるようになってきました。前述のようなふれあい活動、その道のプロのゲストティーチャーをお呼びしての学習、学年ごとの校外学習等、子どもたちは体験を通して、五感を使いながら学ぶ機会が増えてきたことは大きな喜びです。



【パラリンピアンとの交流】

令和5年度は、教育活動においても様々な制限がなくなることが予想されます。その中において、義務教育学校に向けての取組や地域の皆様との交流などもますます盛んになるかと思います。

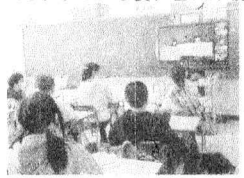
地域の皆様の益々のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

「 あんな高学年になりたい 」

共栄小学校 校長 白戸 裕文

共栄小学校は、異学年での活動を大切にしています。5・6年生で行う委員会活動、4・5・6年生で行うクラブ活動、クロムブックを利用して行ったキラキラ交流。これ以外にも異学年で行う活動は多数あります。これらの活動を通して子どもたちは大きく成長します。

この異学年での活動で5・6年生の素晴らしい姿をたくさん見ることができました。日常の委員会の活動でのアイディアと責任ある仕事ぶり、4年生から6年生がうんと楽しくそして協力できるようにと考え実践するクラブ活動、下学年を思いっきり楽しませようとしているキラキラ交流、進んで玄関の雪を掃除したり濡れているところをモップで拭いたりしている姿、当たり前に思える活動がどれだけ立派で責任のある活動なのかを私たち教職員は一番よくわかっています。



下学年の子どもたちは、上学年の子どもたちの姿を見て、「かっこいいなあ、自分もこんな○年生になりたい。」という思いをもちます。共栄小学校のこのすばらしい伝統を今後も引き継いでいくことが私たちの使命だと思っています。

「あたらしい時代の予感」

事務局 三浦 雅美(青葉中学校 教頭)

今年度は新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、本校を含め、青葉中学校区の関係小中学校での学校行事が復活しつつあることがわかります。

何より、学校行事には、日常の授業の学びだけではぐくむことのできない「よさ」があることを我々教職員は知っています。本稿記事にもある「上級生と下級生の相互交流による刺激」や「先輩の姿を見て、あこがれを抱き真似をする」など、「先生から学ぶこと」とはちがう意義があります。

しかしながら、これまで2年間の新型コロナウイルス感染拡大防止による学校行事の中止や縮小による「学校行事経験の空白期間」は、上級生自身が行事に慣れていない場合が多く、多少ギクシャクしていたことと思います。本校でも、3 年生が初めての合唱コンクールで自主的な練習の経験が乏しい等、これまでの積み上げが無い状況での学校行事の運営に苦慮していました。

それでも、新しい一歩目を歩みだした各学校の取り組みには、これまでとはちがう児童生徒の姿が見られるようになりました。タブレット端末等 ICT 活用と対面で仲間同士の直接的なつながりは、これまでとはちがった側面を見ることができます。今後、物理的な仲間同士の対面の関係とデジタル上の関係はまさに「あたらしい時代を切り拓く子どもの姿」につながるのだと思います。

末筆になりますが、本年度も青葉中学校区健全育成推進会の活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

学年末の安全に関して～融雪期の注意喚起～

- 雪山の陰からの車道への飛び出しやスリップした車両との接触、除排雪作業中の車両に近付くことは危険です。周囲の状況を確認しましょう。
- 気温の上昇による屋根からの落氷雪に十分注意を払うとともに、雪捨て場や道路わきの雪山等では遊ばないこと。公園の遊具などの根元に大きな雪洞ができていることがあります。